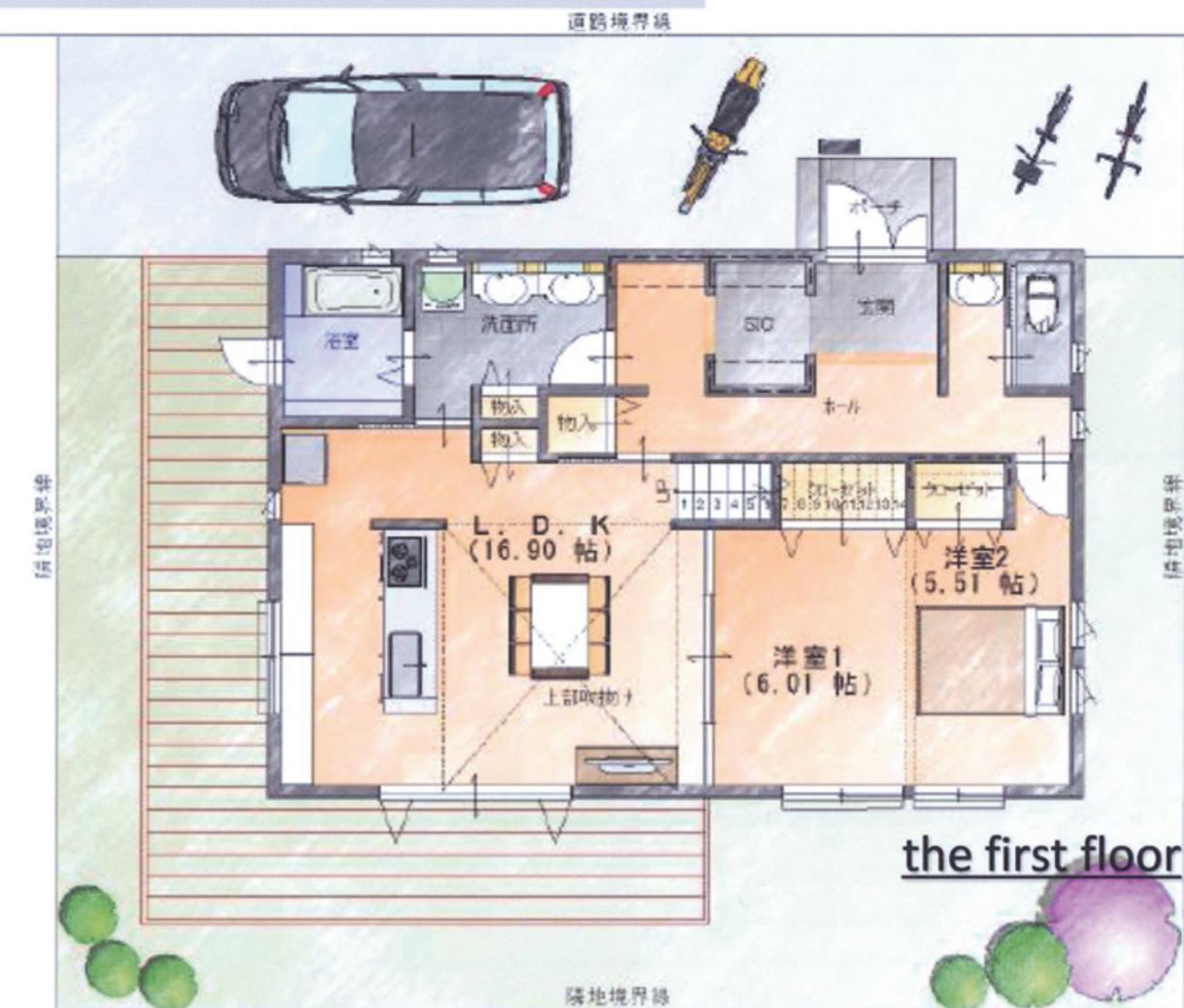


south-east outside drawing

・収納
SIC、納戸といった大型収納は暮らしの変化に対応するのに便利である。玄関→収納→洗面所への動線は、元気に遊んで泥だらけになる子供たちには最適。サニタリー・キッチン収納は乱雑になりやすい空間をきれいにまとめてくれる。

・水周り
ツインボールの洗面台は、住人が増えたときには便利。トイレの横の洗面台は、子供たちの帰宅後の手洗い習慣をつけるのに役立つ。また、洗面所が使用中で入れない時も困らない。将来的にバリアフリー化する際に、トイレと一体にすることが出来る。



・1階=LDK、居室
開放的に、庭も含めて一続きの空間として使える。夫婦だけ、子供が幼い時などに求める開放性を得られる。将来は個室を分けて、夫婦がそれぞれの空間を持ちながらも1階だけで生活することが出来る。

・吹き抜け、勾配天井
勾配天井を介して繋がる LDKとフリースペース。空間が広がり、2階の高窓に向けて空気が通る気持ちの良い空間に。



the second floor

table of areas

1階床面積	79.49 m ² (24.04坪)
2階床面積	34.78 m ² (10.52坪)
建蔽面積	79.49 m ² (24.04坪)
延べ面積	114.27 m ² (34.58坪)
敷地面積	204.77 m ² (61.94坪)
建ぺい率 (%)	38.82 %
容積率 (%)	55.80 %

単世帯ファミリーから 二世帯ファミリー／シニアライフ／シェアハウスへ

日本の住宅は、新築から20年30年経過して家族の変化に合わせ建替え、また20年・30年して世代交代による建替え、と新しく建て替わっていく。数年前から100年住宅・200年住宅という言葉や長期優良住宅などという言葉を聞くが、結局、世代が変わって建替えるという感覚は、私たちの中に根強く残っているように思う。

しっかりと個別の空間がほしい時期、オープンな広い空間がほしい時期... そういった時期は交互にやってくるのに、住居がその変化についていけない。子供を育てながら暮らす、夫婦二人で趣味を楽しみながら暮らす、年をとって体をいたわりながら暮らす... 家族の暮らし方は変わるので、住居がその変化についていけない。



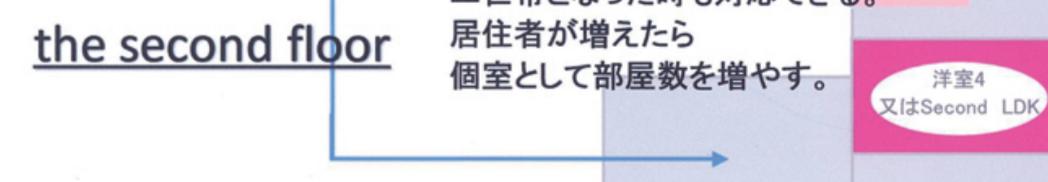
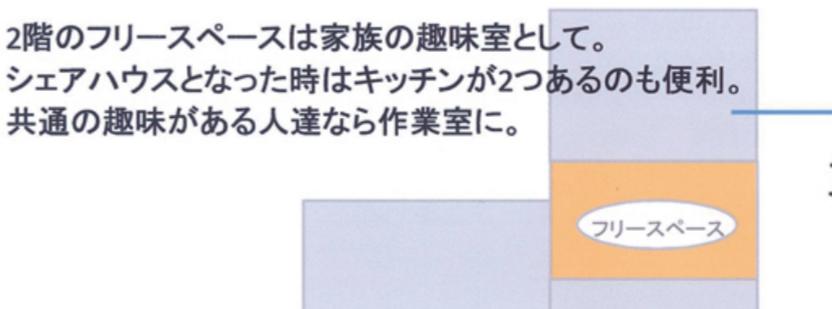
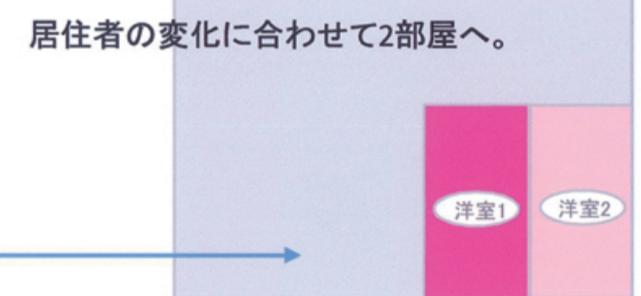
south-west outside drawing

都市部では土地は細かく分割され、法規制も厳しく階を積み上げていくのも難しいことが多い。屋根のいびつな建物も今は珍しくない。

高さを抑え、平屋のようにする。しかし、2階の空間は確保し部屋を増やすようにする。

屋根の形状をシンプルな片流れにすることで、太陽光も搭載しやすい。日差しの差し込み具合の気になる時には、多少トップライトを造っても、搭載量は確保できるだろう。

老後の田舎暮らしへのあこがれも近年よく聞かれる。平屋イメージのこの間取りは、夫婦二人の田舎暮らしにも最適だろう。また、都心に家を残して田舎に移りたいとなれば、残した家の活用方法も大切だ。丸ごと1件1世帯に貸し出すもよし、少しだけ手を加えて今話題のシェアハウスにしてしまうもよし。この家は手を加えることで住人の変化に対応しやすい建物になっている。



人の流れ、時代の流れ。
流動的な暮らし方の提案。

流線家屋

コンパクトなロングライフ住宅